ここに、諸人酒酣に、更深け鶏鳴く。これに因りて、主人内蔵伊美吉縄麻呂の作る歌一首

四二三三番
打ち羽振き　鶏は鳴くとも　かくばかり　降り敷く雪に　君いまさめやも

守大伴宿禰家持の和ふる歌一首

四二三四番
鳴く鶏は　いやしき鳴けど　降る雪の　千重に積めこそ　我が立ちかてね

太政大臣藤原家の県犬養命婦、天皇に奉る歌一首

四二三五番
天雲を　ほろに踏みあだし　鳴る神も　今日にまさりて　恐けめやも